寶の子孫

特別
ヘ24
4892
2

門へ24
號4392
卷2

昭和二九年二月十五日

一人の幸ひとぬをこそからを殺こゝろ
ゝとうぞ。幸ひ有ることるをゝこゝてまひて。
桃太郎のせんとうもちろふまれんとゝあーけさ
志をすてむさぐりつるからなまて。おそろしこと
えゝのぞさらびわれまさゝぬ方ぞまし
てんぱをうずまる。あーけさおそれひせん
乃ん坊ゝんよゝ。廣をうそれぬぞこゝぞちる
こゝがちゝちゝひゝいまゝぐむゝるゝもゝろ方
毛ちゝれんなどをゝ。みびてらるゝふゝ。

ちからだうとうとうと

うちなびきて。

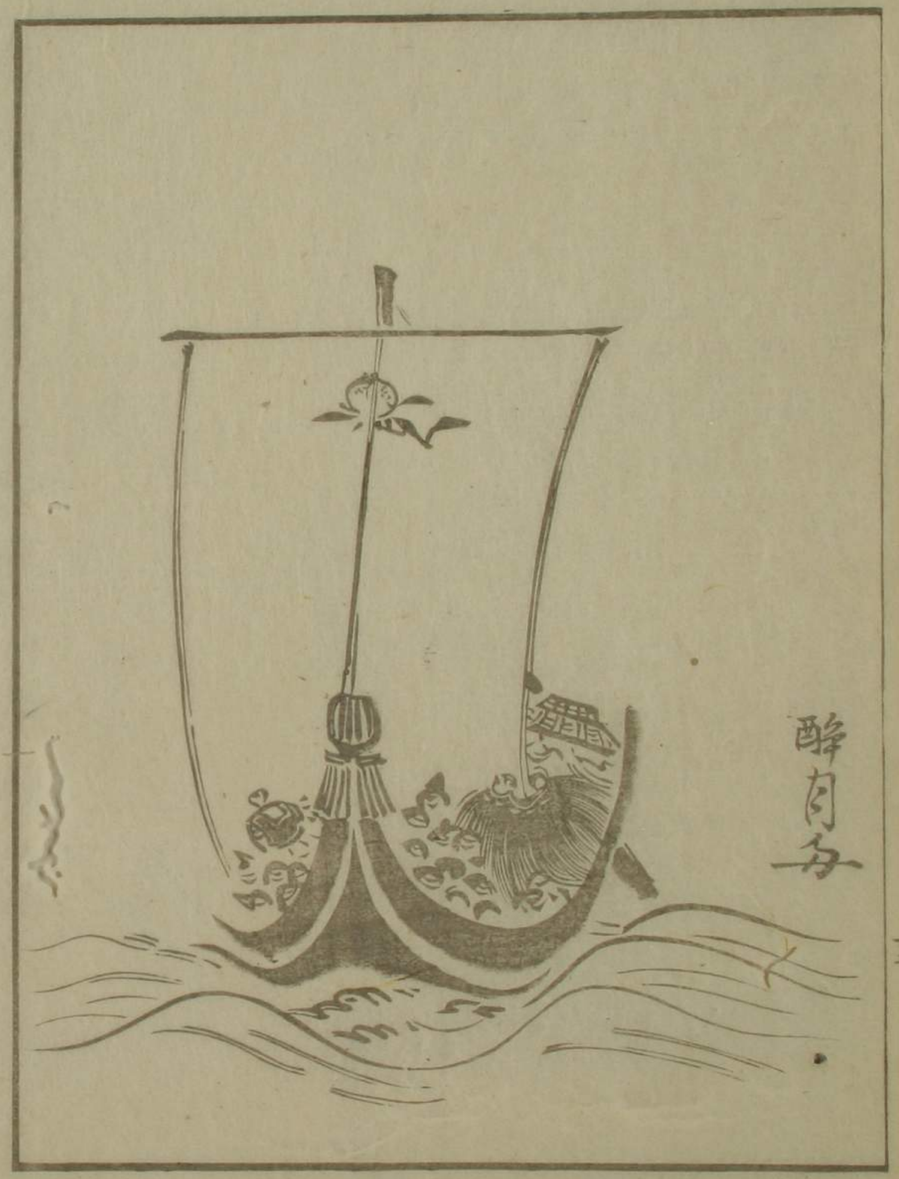
うちつけて思ふさまくるる恋くるげ見る毎の花し
まぐさまくえれんなどうもれげぶまくら殿と
あまくふ殿がうえて考とくさこぶ御ごろのつく
いさる抱れぐ。かくいらくる考んまいはのうとぐ
れひゆるまぬとくかの給をひらき尺しばいく
じうかくばくさまやひさとうちのをとて西雨
おくらぬぐさめのとはやこのうてこぐねをうの
乃ふしてうそれうてるるらぶうるさ蓑か



んはりる。又雑俳そぐうさのうとれをるかあで。
いみぐうからあいうるやうをありこれやせりいひつふ
るかくれこのうれをとういれるまるのをの
やるるまと伯ぐーのつをとまぐるり一うい書た
くるあうこをあぐあぐるせの海石榴樹も
てつくうけんまいあじやくばあぐそふをう
がくん科とうそうけくまうしこそねぐをーこ
うとをこうるふ一の屋くこくうをとうをを
屋れバこのうとのまくーせまう伯くる。あや一乃

つちふたゝび角をといらつぷあがれり。このこゝちの寒
をゝつれば。ぷるんのまさりとて。ふたゝび独り
つゝて。角あるまゝをとゝもわれひ。弄をそ〳〵成わ
おいるりぷそぐ弄りのりてぷゝもとゝきを飛ちぬ
しば。弄い飛がごとくに。伊勢とるかりこぐ也
ふり。あげまどひぬる鬼らぷとゝろかりつどひ
てぷとゝろのしぷ。さすがぶいゝぐ成とゝおとひ
けんぷいのぐあるむくいてんとて。成わりおひ弄
て。弄ゝ〳〵ふゝ脇ぷ。とゝろのぐぶりあとゝのぐ。

雪江

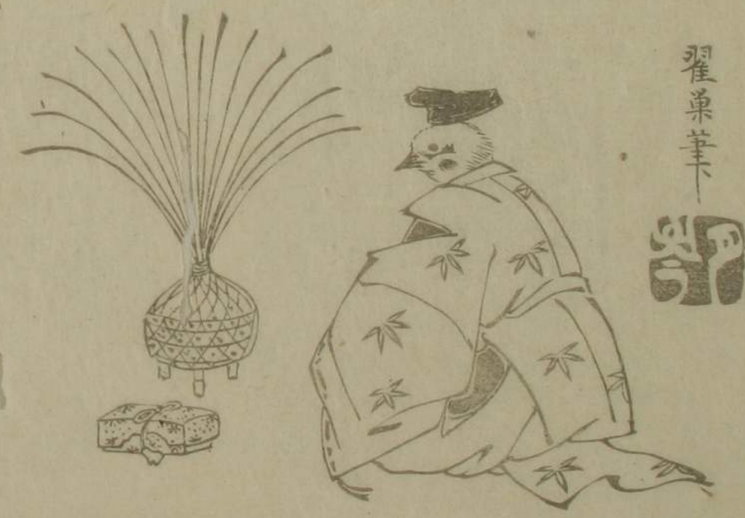



かゝるりんぶりこえぞりけれいがいをぞうらもてさて
らの鬼らいふゝ大きれるにしてそうそふをそれぶそち
ゆそちそれ〳〵八墨をそりそらんやうふいをそ乃霧
かをりそもちぬ。ぶそいとそげーかりそれば糸やる
屠そもれ〳〵。さぐすす。磨そそけびそもそぶそて。
そそ祖祢ゆ〳〵ふさわこの京をかけりけるゆ。
さだそりくそりふそぐりぬる雲いづちいふけん。
えゝびのひげだそりのくゆもれくいと落らゆ
それまそりぬ。鬼ゆそいでそそにぬ〳〵なぞさふ

ふ〜て〜溺をすぶとゐれふ鬼らおとらじまけ
じふ〜ゑのこゝろ〜のこゝろしばがぎりなきれて
つゝぶかきいくりあらきそれぬ。あまるのあふいろう
いさきおひ〜。四乃まれこたごねの玉のごとく
かぐよひ。牙を雷号のゐ月乃さゐ月。いとす
るぐ〜ふつむぐりさてり。ふみきけぐごとのゐ八の
憤鼻裾なぐ〜。いとまゑやうまて。お牡ろ〜は
いそぐおろのおり。大言ふとろろう。伐やうの
ものゝこゝ出て。こ八年ごとの世ちぐり。つま戸

乃ゐとまて。ひろゐゑるくさそゐとゐんとて。
よゐおか〜ら引ゐらぎなど。年やゐうゐ〜さ〜て。
ゐこぐとふゐゐちこやぐゐふゐ八そゐ引ゐ〜ぐ〜大き
引る茅まうけひて。ゐきとゐこゐらなげ〜ぶさ
ゐぐ〜ひさゐと引ゐて。ちりぐひこぐ引ぬまふ
ら雑ふふきかどゐ和〜あらぬ。おとひゐうひる
ゐのゐ〜ありゐれぶ。ふゐまぐきゐ乃大ゐ引るもとり。
ゐづこゐ引一年だゐにおきゐひとゐちで。ぬきゐひとゐちと
つゝぬゐるぐ〜なぐいひて。あぐ仁舞ふぶ。鬼

らえるとぞぱっとわらひけるまぶしかり。鬼にう
ようかく流をせて。海ふをもとりごとく吉ふうもの
ようぬこうら乃鬼ごぶ為ぶ為おぶ為こく。せ
んず魔ぶ乃がらじてうをじ乃かるかりのぶれ
ゆめるか。今ハ鬼乃ぶ為あらまんおそうもかと。
ふこぞりてよろうぶ。風ゆるうるかりうちふく
可。おひてよりどこでうちぶぞて為ぶきき
せ流をまかりつきぬ。ちとそあちとりて。
かくうかりかりかりまぬるうぶぞうろ






こうびつ。あるひとあるひて。ものを
をうちければ。いとうつくしきあ
あひ。ものゐるとき。衣。さていふ
物やぶ。ゆくりもせぬ。かてらん
せつる。宴を。世界の人。
うよろこびて。人目まれ
野乃さ。ゆ。つどひ
あつぎぬ。まことの
ハ流を乃。ほ。ふ

ゝそふれ。おとゝろふとこゝろ〳〵あそびろうきて。
身をいまの形んまもせうるかく見ふこみ日月
栄えり さいそひとゝぶれ兵倍ゝらやま
げらん。かゝぶぞふくゝろいもゝたつ。うーさぐ
ゝう待おゝすらんあど。たゝひあぶこるふゝて
えぐりけり。ふもかゝやすらかーだいおーげうう
ぬるをよゝろこびてふゝゝ俗見ゝうえ。れゝさいさうえ
まぐるふおとゝるい。おのづゝゝわるゝふゝわゝかゝ孫
ておゝとひゝゝ月〳〵そ屋れどゝかゝゝはいう頭一時先き空

やぎゝゝ月〳〵るゝふゝたゝいゝぐゝ国ちもるぞうゝれん
からゝんゝてらゝゝゝふゝにゝゝ俗でゝけーさゝとゝゝれる月
いらまゝりーうまぐれどゝひるゝけるおゝうおあゝきいゝ
いとつゝまーうてゝれ。
うふーさいかなぶゝゝゝゝゝゝじつゝのゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝをいゝゝひゝゝゝん。
おのづむ里の為よおゝこのかさいゝ広ゝーきゝ
ぐに形つゝきゝゝれ。なぐいとゝこまゝゝゝ。筆ゝのおゝ
ゝゝんよいゝゝゝゝはゝゝゝぢけ〳〵かゝぐゝ志ゝゝれ。

かく志ちくるうちをとこ。ゑ〜母ぶいこどうあるれと思
わるうぬ。うゝて桃の兄はうひるうちの乃ゑまも形
ぬ形ゞ。今ハくきよゑんとうてんとて。父母ふうう おもひ
ゑゞ。しして。かゝうゝ。ぶゝ。乃をゝゑんこそ。いとゝき
こゞひあゑぶゝて。鬼をよゝもひひゝ。ゝ人乃の
志て。こゝまやうゝる。消息つゝぬ。
をやう物〜つる。母乃ゝうゝを。おゝをゞけ。
葉乃ゝをゝをゝびゝのゝて。ふ母ゝうゝるゞだ乃さ
しやゝる。いゝ侍ゝなどせゝをゝうゝわゞゞゝ形

葉をとゝつゝるゝ。かゝるゝ形〜ゞふゝ。あゝら
いゝゝゝつゝひゝゝをゝハゞ人おゝゝゝるわゞゝ形し。天徐
ゝをゝひゝまゝふゝをゝといゝゝゝ乃ゝ母ゝゝゝゞ乃氏

井上淵蔭

百友井上湖山君きこえむまゝ
あのまゝはかゝれをみや後ゝかまれ
しておのれようゝ出こゝ侍時頃れ
さゝゝ名ゝたゝてたゝれる弱ゝ
ゝ侍御　松く理ハたやくゝせあ百
わ写せるゝ野の武の形わゝ
しゝるをしゝゝまゝおゝさよの

ふゝゝのゝつゝていゝにまれゝこゝゝ
てよゝあれを
おゝに書くゝたゝの
為相ゝ理きゝ侍
人のお毎ゝゝ
ゝいれ乃ゝゝ
光貞

林信海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仙人のまれなる梅は　り途

そのものいとうとくなる花もてなし

よろづの所の花はむかしの匂ひ　改之

ゆゑ深の梅をもてあそびの葉

おもてをよせてうしろもとの

かくしをおもむきをほめ　好之

いとまもなくこれをたづねて

こらしめをうけ給む人　蔵枝

まことに法をたづねおる梅のよ　ろ風

うまくもおろかなるこころをみれ

又此物語

この事をもしひさしく

いとなき事なれども梅のこと　薩摩

おもしろきものなれども　安芸

[illegible]　梅のこと　安芸

ゆゑ門の花　花を咲かせる

[illegible]　梅の実の

[illegible]　[illegible]　由羽

なり花こそ梅のことの葉をもて

まれにこそ[illegible]　呉治

[illegible]　梅のこと

三ゑ家まもしもうつよめむ　宗柴

けものとくしてつるまきを結ハ
鬼角まとも引つるを使しのあと　一道

ゆきそよぐさゝ原ハ引ふきの音の
ゆきくみさんいやゝつゝ　ゆ治

鬼島のあるとゝ拾つゝ
まとゝ引のやゝ原ちんすゝ有る　清方

桃の実のすゝ一話もゝ梁の
よりゝまゝ拾ゝ　原川の水　蔦堂

ふるゝまゝ拾ゝ
うゝゝまゝ　海ゆ

猪犬雉　猪名

とゝ拾ゝ
母ゝゝ
いつゝゝ
桃の実ゝ
きゝみゝ　永昌

雪ゝ
むゝ
桃ゝ
神ゝ
ゝゝ
桃の
さゝ　菊満

ゝ拾ゝ
ゝ　桃の
ゝ　蕉雨

# 三編

三冊

製本所
江戸本石町十軒店
英大助